

# 文化財コーナー 御蔵芝の熊野神社について(三)

No.357  
平成28年7月

水盤正面の円中に三本脚の鳥が彫られている。この三本脚の鳥を「八咫鳥」と言う。この八咫鳥について、『古事記』(日本古典文学全集)の中に、

「(前略)今、自天遣八咫鳥。故、其八咫鳥引道。従其立後

応幸行」(今、天から八咫鳥を遣わしますが、その八咫鳥が先導しますので、飛び行く後について行きなさいと申された)とある。

神倭伊波礼毘古命(後の神武天皇)が日向から天下を治める土地を探すべく東征する時に、熊野において、高木大神が「天つ神御子」(神倭伊波礼毘古命)に夢の教えを与え先導役に八咫鳥を遣わしたという。よって八咫鳥はパイロット(水先案内人)と言える。

古代中国では、太陽の中に金鶏が棲むとされており、それが八咫鳥であると言う。

祝日に掲げる旗竿の先に金玉が付いている。これは神

武天皇が長髓彦征伐の時、神武天皇の持つ弓先に舞い降りたのがこの「金鶏」である。

これは金色に輝く鳥のこと。この金玉は金鳥を意味し、金鳥はまた、太陽の異名で、太陽に棲む三本脚の鳥、すなわち八咫鳥を表す。

八咫鳥は神の使いとされる熊野神社の眷属である。眷属とは、「神の使い」また、「神使」とも言われる。

本宮大社の主祭神である家津美御子大神は八咫鳥を眷属としている。すなわち、八咫鳥は神の使者と言える。例えば伊勢神宮の神使は「鶏」で稻荷神社の神使は「狐」、石清水八幡宮は「鳩」と言う様に眷属を表している。

鳥は一般に不吉の鳥とされているが、方角を知ることで、未知の地へ行く道案内とされている。

このように神の眷属に対する概念は、古来、神は我々の目には見えない存在であるので、神が遣わしたものは可視

できるということから、神と関係のある意志を示す、というような考えが生まれたものと思われる。

『豊岡村史』には、「孝謙天皇の御代の九月(中略)数千の三足鳥諸共に関東を指して飛び去りぬ(中略)当初御蔵芝の郷に安置せり、三足鳥は輪名目五郎左衛門畑の一樹に棲息して(以下略)」とあり、孝謙天皇の代(※)に、三本脚の鳥が御蔵芝に舞い降りて棲んだと書かれている。

そういう熊野神社の社伝に基づいて若者衆が、熊野神社の眷属である八咫鳥を水盤正面中央にレリーフとして石工に依頼し、刻み込ませたと推察できる。

このような八咫鳥が刻まれている水盤舎は大変貴重なもので、極めて珍しいものと言える。

※第四十六代四十八代の天皇。孝謙天皇としての在位期間は、天平勝宝元年(749)～天平宝字二年(758)。

茂原市文化財審議会委員

片岡 栄

# 文芸コーナー

決心

山本 明美

父の享年は七十六歳  
母は享年七十七歳  
親の生命の年齢は  
自分の  
生命の目安と考えている  
大病  
寝たきり  
認知症とは無縁でありたい  
経済的自立  
身心と身辺の  
清潔は保ちたい  
努力だけで  
叶えたい結果は得られない  
全てが  
きれいな片付かない  
誰にも  
先の予測はつかない  
平成二十八年三月二十日  
彼岸中日の今日から  
終活を始める  
面倒の種が  
芽吹かぬよう  
早目に拾って捨てておこう

◎選評 斎藤正敏

親の生命の年齢は誰もが気になるものです。彼岸ともなるとその感慨もひとしおです。彼岸の中日。今日から終活をと思い立った作者ですが、平素から死生を想って生活すること。大事なことに思えます。

●偶数月は「俳句・短歌・川柳」を、奇数月は「詩」を掲載しています。  
●投稿は楷書でお願いします。作品・氏名にふりがなをふってください。

※俳句、短歌、川柳の原稿送付先  
〒297-8511 茂原市道表1番地 茂原市役所秘書広報課宛「文芸コーナー」と朱書きしてください。